

令和5年度 学校経営方針

北九州市立緑丘中学校
校長 井上 要

1 学校の教育目標

子どもたちに未来を切り開く力をはぐくむ学校教育の創造

2 令和5年度の重点

- 予測困難な未来に向かう子どもたちへ教職員が一丸となって「信頼される学校」づくりに努力する。
- コロナ禍における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- SDGsの視点を踏まえた教科横断的な教育活動を推進する。

3 重点目標達成のための具体的な取組

(1) 「スクールプラン」に基づく「確かな学力・健やかな体の育成」

- 組織的・計画的な学力・体力向上の推進
 - ・学力・体力向上推進委員会（三部会）を機能させた取組の共有と推進
 - ・チャイム席、環境整美の指導を含む授業規律の徹底
 - ・少人数指導の推進（補充学習の実施）
- 思考力・判断力・表現力を大切にしたいわかる授業の実施（資質・能力）
 - ・授業における「めあ→個人思考→集団思考→まとめ・振り返り」、話し合い活動の充実、ICT利活用推進
 - ・学習指導要領に基づく指導と評価の一体化と授業改善
 - ・若年指導、教員相互の授業研究等、校内研修の充実
 - ・授業力向上のための教職員研修や研究発表会等への参加
- 家庭と連携した生活習慣、学習習慣等、「学びの基盤づくり」の充実
 - ・自主学習ノート「midorin ノート」の活用と工夫
 - ・ドリルアプリ等を活用した朝自習等、基礎学力向上の取組の工夫と充実

(2) 「心の育ちの推進」

①自己実現を目指す積極的な生徒指導の推進

- 組織的な生徒指導体制の確立 積極的な生徒指導の推進
 - ・定例の生徒指導委員会の開催、共通理解の促進等、指導体制の確立
 - ・市教委や関係機関等との連携
 - ・「地道な努力 夢への近道」をキーワードにした生徒会活動の一層の充実
- 思いやりの心の育成や規範意識の醸成
 - ・道徳教育の推進
 - ・ソーシャルスキルの育成等、人間関係づくりを基盤とする学級活動の推進
 - ・非行防止、シンナー等薬物乱用防止、暴迫、人権教育、デジタルシチズンシップ等の実施
- 共感的な生徒理解に立つ学級づくりの推進

- ・教育相談や生活アンケートを通したいじめや友人関係トラブル等の早期発見と組織的な対応
- ・ねらいを明確にした行事の実践と自己肯定感が高まる生徒の振り返りの工夫
- ・UDの視点を大切にした教室掲示物等の充実、学習環境の整美

②確かな人権感覚をはぐくみ、人権意識の高揚を図る人権教育の推進

- 人権尊重の精神に基づく、一人一人を大切にしたい学級づくりの推進
- ・「新版いのち」、「明日への伝言板」等、人権教育教材を活用した人権教育の推進
- ・「人権教育ハンドブック」等を活用した教職員研修の充実
- ・教育的に困難な状況にある家庭や地域の現状を踏まえた教育活動の推進

(3) 「子どもの特性を伸ばし、意欲を高める教育」の推進

○特別支援教育の推進

- ・特別な支援を必要とする生徒一人ひとりに応じた支援の充実、及び保護者・関係機関との連携
- ・特別支援コーディネーターを中心に、全校体制による特別支援学級の経営と指導の充実
- ・特別支援教育に対する理解を深めるための研修の推進

○部活動の適切な運営と指導

- ・本市「ガイドライン」に沿った部活動運営と指導の推進（合同・連携部活動と地域移行）

○望ましい勤労観・職業観を育成するキャリア教育の推進

- ・学級活動等を活用した系統的なキャリア教育の実施

○日本の歴史や伝統文化を尊重する教育の推進

- ・授業・部活動等における日本の伝統文化を学ぶ機会の推進

○読書活動の充実を図る学校図書館教育の推進

- ・担当職員、ブックヘルパー、図書委員等が連携した学校図書館の運営
- ・学習センターとしての学校図書館の施設・設備の一層の充実
- ・市読書の日等を活用した読書活動の推進

(4) 信頼される学校づくりの推進

○小中一貫・連携教育の一層の推進（9年間を見通した「目指す子ども像」の共有）

○学校評価の実施と公表

○学校運営協議会の実施

○PTA行事や地域行事への参加等による保護者・地域との連携

○学校通信や学年・学級通信や学校ホームページ、teturu等を通じた情報発信

○生徒・保護者・地域に対してカウンセリングマインドを大切に、丁寧に迅速な説明や対応

4 学校の教育目標実現のため、大切にしてほしいこと

○業務改善の意識を全職員が共有し、時間外勤務時間の削減、定時退校日の確実な実施で、心身の健康管理に努めるとともにワークライフバランスを推進する。

○教職員同士良好なコミュニケーションを心がけ、同僚性を高め、ハラスメントを生じさせない職場環境、職員室風土を築く。

○危機管理を徹底し、「報連相」や「危機管理のさ・し・す・せ・そ」を実践する。

（最悪を想定し、慎重に、素早く、誠意を持って、組織で）対応する。

○事務室、学校支援講師、SSS、SC、SSW、学校図書館職員等との緊密な連携を図る。

○何事にも協調性をもってあたり、「チーム緑丘」として力を結集する。

○教育公務員としての自覚のもと、綱紀粛正に努める。

（T P Oをわきまえた身だしなみ、現金の適正な管理、守秘義務の遵守、セクハラ・体罰・飲酒運転等の防止他）